

岐阜百秀山



2021年5月
ナカニシヤ出版
A5判 278頁
2200円+税

清水克宏著

私が岐阜の山に初めて触れたのは1966年、山岳部の合宿で奥美濃の冠山に南面のシタ谷からヤブこぎで登ったときだった。年老い、縁あって北濃に住まい、また

ヤブ山に登るようになった。

岐阜県に焦点を合わせた山の本は、酒井昭市著『ぎふ百山』(1975年)、『続ぎふ百山』(1980年)がある。また、酒井氏には「飛騨の山 美濃の山」(1988年)、「飛騨の山(ヤブ山編)」(1990年)、「飛騨の山(国境編)」(1992年)などがある。さらに高木泰夫著『奥美濃―ヤブ山登山のすすめ』(1987年)、大垣山岳協会編『美濃の山』3巻(1996年)などが我が書架に並んでいる。時を隔てて最近これらを参考に山を歩いてみると、登山道の相違、植生の変化、樹木の生長や伐採など、山が生きて変化していることが分かる。

そこに新たに『岐阜百秀山』(2021年)の刊行である。切り口を変えて著者独自選定の山々が描かれている。槍・穂高、御嶽、白山など県境の高峰も選ばれているが、従来の書籍とは味が違う。本書は、ほとんどの山を著者自ら2016年から20年までの5年間に集中的に踏査されているので、情報が新鮮である。踏査最後に残されたのが石徹白の小白山であった。20年3月、拙宅にて一献傾けながら山

談義が盛り上がった。著者は翌早朝出発し、予定のルートで踏査を完結された。

本書にある山々の半数は私も登っている。自分の登山記録も含めて30〜40年も昔の情報と比較しながら読んだ。改めて時代の変化を質した。たとえば、蕎麦粒山は高木泰夫氏の時代、山頂に突き上げるアカイシ谷(タカノス谷)を直登している。その後、『美濃の山』の記述では1994年ごろ、小蕎麦粒山の南西、1180mピークに南から突き上げる尾根に登山道が開かれている。本書の記述では201

第915号 令和3年8月20日発行 (毎月20日発行)



2021年(令和3年)

8月号(No. 915)

公益社団法人

日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

7年ごろ、大谷川とニシマタ谷の出口、林道終点から直接尾根に取り付いて山頂に至るルートが開かれている。私は五蛇池山の峠から小蕎麦粒山経由、ヤブこぎで登った。野伏ヶ岳、猪臥山など積雪期のスキー登山に適したピークも選定されているが、著者は残念ながらスキーは使われていない。最新の登山ガイド本ではあるが、山の文化や歴史を知る手掛かりとしても参考になる。コラムは円空の山、愛すべき低山、奥美濃の難峰など幅広く楽しめる。

(井上達男)